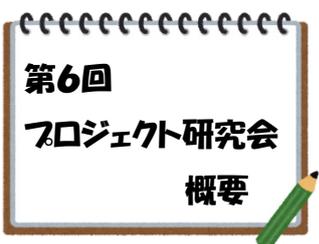


# 校内研究活性化プロジェクト研究通信

第10号 令和5年(2023年)10月26日発行

秋晴れの陽気が心地よい頃となりました。実践校のみなさまにおかれましては、運動会や体育祭、文化祭などを終えて2学期の折り返しを迎えられ、年末に向けて目標を見据えながら日々の教育活動に邁進されていることと思います。

プロ研通信第10号では、10月11日(水)に開催しました、第6回校内研究活性化プロジェクト研究会での研究委員のみなさんの学びを振り返ります。今回のプロジェクト研究会は、Y小学校の先生方に御協力いただき、研究授業と研究協議を参観させていただきました。参観を通して学ばれたことを自校の校内研究活性化に生かしていこうと考えておられる研究委員のみなさんの様子をお伝えします。



**第6回プロジェクト研究会のめあて**  
Y小学校の教員の学びを見取り、教員一人ひとりの学びの転換を推進する校内研究のあり方を考えよう!

- 第6回プロジェクト研究会の流れ**
1. 研究授業の参観に向けての説明
  2. 研究授業の参観
  3. 開会の挨拶
  4. 研究授業についての協議
  5. 校内研究会の参観に向けての説明
  6. 校内研究会の参観
  7. 振り返り
  8. 閉会の挨拶
- ※開会の挨拶は参加者が全員集合した授業の参観の後に行いました。

## 授業参観に向けて

今回のプロジェクト研究会で、研究委員のみなさんに参観していただいたのは、プロ研通信第7・9号でインタビュー記事を紹介した3年担任のA先生による第3学年国語科「ちいちゃんのかげおくり」の授業でした。

授業の参観にあたり、研究委員のみなさんにはその後の協議を焦点化するために「授業参観記録シート」(図1)を使用させていただきました。

「授業参観記録シート」には、Y小学校の校内研究主題と授業者であるA先生の課題のつながりや、これまでのA先生の学びなどの情報をまとめています。さらに、参観までに情報を整理し、子どもの学びの姿から授業を参観することで授業者のねらいや指導とのつながりを見取っていただけられるようにしました。

令和5年度 第6回校内研究活性化プロジェクト研究会 in Y小学校

授業参観記録シート

所属校( ) 氏名( )

Y小学校の校内研究主題

課題に向き合い、他者と交流する中で、自分の考えを再構築しようとする子どもをめざして

「共通実践」の方向性や内容

①自分の思いや考えを相手に正確に伝える力  
②相手の思いや考えを深く読み取る力

第3学年国語科 授業者 A先生

・子どもの学びの姿から授業を参観し、6校時に研究委員同士で協議を行う。  
→協議の際に子どもの学びの姿とその要因を語れるように準備をしましょう。  
・校内研究の取組に関して気付いたことや感じたことも記録しましょう。

授業者の課題	・学級内の学力の差が大きく、児童一人ひとりの学びにつながる授業づくり、学級全員が参加できる授業づくりに難しさを感じている。
授業者のこれまでの学び	・1時間の授業でめあてやポイントを焦点化することの大切さ。 ・話し合い活動で話型や進め方を確認すること。 ・子どもたちにとって新しい発見や変化が見られる交流にする。
参観の視点	事後研究会参加グループ
	見取りたいこと
参観しての気付き	

図1 授業参観で使用した「授業参観記録シート」

また、管理職の先生方には授業を参観していただく際に「授業参観記録シート(管理職 ver.)」(図2)を使用していただきました。

このシートは、授業者が次の授業改善につなげようと自信をもったり、新たな気付きを得たりできるためのフィードバックをしていただけるように活用していただくことを目的としています。そのため、管理職の先生方にも、「子どもの学びの姿とその要因」に焦点化して参観していただいたうえで、A先生に直接フィードバックしていただきました。

令和5年度 第6回校内研究活性化プロジェクト研究会 in Y小学校

授業参観記録シート(管理職 ver.)

1校長先生

Y小学校 校内研究主題  
課題に向き合い、他者と交流する中で、自分の考えを再構築しようとする子どもをめざして

「共通実践」の方向性や内容  
①自分の思いや考えを相手に正確に伝える力  
②相手の思いや考えを深く読み取る力

第3学年国語科 授業者 A先生

「授業者の課題解決に向かう実践(授業改善)と児童の学びに向かう姿のつながり」について、管理職の先生方に気付いたことを見取っていただき、授業者が次の授業改善につなげようと自信をもったり、新たな気付きを得たりできるためのフィードバックに向けた記録として活用していただきますようお願いいたします。

授業者の課題	・学級内の学力の差が大きく、児童一人ひとりの学びにつながる授業づくり、学級全員が参加できる授業づくりに難しさを感じている。
授業者のこれまでの学び	・1時間の授業であってポイントを焦点化することの大切さ。 ・話し合い活動で話し方や進め方を確認すること。 ・子どもたちにとって新しい発見や変化が見られる交流にする。
授業者の課題解決に向かう実践と児童の学びに向かう姿のつながり	
授業者の実践	児童の学びに向かう姿

図2 管理職の先生方に使用していただいた「授業参観記録シート(管理職 ver.)」

## 研究授業の参観

Y小学校には50名を超える先生が在籍されており、一つの教室での参観人数が多くなり過ぎないようにする運営の工夫をいろいろと実践されています。この日は同時に4年3組でも研究授業が行われ、分散して参観するという工夫が見られました。

プロジェクト研究会としては、A先生の授業を参観させていただきました。



Chromebookを使って指導案への書き込みを即時で共有

授業者であるA先生の課題は「学級内の学力の差が大きく、児童一人ひとりの学びにつながる授業づくり、学級全員が参加できる授業づくりに難しさを感じている」ことです。その課題を解決するために、A先生は様々な手立てを講じておられました(表)。

また、校内研究主任は、かねてより「校内研究で協議の時間を十分に確保することが難しい」と仰っていました。その課題を解決するために今日の授業参観では、同じ研究グループに所属されている先生方がChromebookを使って指導案への書き込みをその場で共有することで、研究協議における情報共有の時間を短縮することに挑戦されました。



3年4組の授業の様子

表 A先生の課題解決に向けての手立て

児童一人ひとりの学びにつながる授業づくり	学級全員が参加できる授業づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりに冊子風のワークシートを作成する。</li> <li>グループ活動の際の席移動の仕方 →同じ方向を向いて座ることでワークシートを共有しやすくする。</li> <li>言葉の宝箱 →考えや気持ちを表す言葉を活用し、自分の思いを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名前マグネットを用いて、問いに対する自分の立場を明らかにする。</li> <li>「反応マン★」の活用する。 →「うんうんさん」「でもでもくん」「わからんさん」など、友達の意見に反応する例を提示する。</li> </ul>

研究委員のみなさんには、予め御自身が感じておられる課題に近いテーマをもつY小学校の校内研究グループを選んでいただきました。そのうえで、子どもの学びの姿とその要因に注目して授業を参観していただきました。

### 研究委員のみなさんが選択されたグループ



B先生

「指導と評価の一体化」グループ



C先生

「学力低位の子への支援の仕方」グループ



D先生

「交流が活発になる条件の設定や手立て」グループ



校内研究主任

「学力低位の子への支援の仕方」グループ

自身の課題を設定し、目指す子どもの学び姿を思い浮かべながら授業を参観することで、参観の視点が明確になります。そして、教員の課題を解決する手立てを探るためには、授業の中で子どもの学びの姿をじっくりと観察し、教員の指導と結び付けて考察することが大切なのだと、研究委員の先生方の姿から私たち(研究員)も改めて学ばせていただきました。



### 研究授業についての協議

研究授業を参観した後、研究委員同士で授業についての協議を行いました。協議の目標は「研究委員のみなさんの学びを共有し、協議することで、自身の課題解決に生かせる手立てを見いだす」ことでした。

それぞれが異なる課題を設定して参観した授業を基に話されていたのですが、子どもの学びの姿から協議が繰り広げられることにより、一人ひとりの課題につながる新たな気づきを得られる場面がたくさん見られました。



研究委員同士の協議の様子

また、この協議を通して研究委員のみなさんには、校内研究会の中でターゲット教員(各グループ内で研究委員が注目する教員)の学びを見取るための視点を整理していただきました(図3)。

	5校時	6校時	放課後
		研究委員同士の協議	校内研究会の参観
プロジェクト研究会	研究授業の参観	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">自身の学びの振り返りと省察</div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">ターゲット教員の学びを見取るための視点を整理</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> </div>	ターゲット教員の学びの見取り
Y小学校	研究授業の参観	各学級で授業	校内研究会

図3 プロジェクト研究会による校内研究会の参観に向けての準備

## 校内研究会に向けて

校内研究会の参観をする上で、校内研究主任の先生からこれまでの取組の話や今回の校内研究会での工夫点などをお話いただきました。

今回は、初めてICT機器を活用して意見交流を行います。これまでは指導案に直接書き込んでいたことを、画面上で共有して研究会に臨むということに挑戦してみました。運用がうまくいっていないグループもあったのですが、この取組が研究会でどのように生かされるかが楽しみです。時間の確保がやはり問題なので、限られた時間の中で深く話し合うためには、研究会までに情報を共有しておくことは必要だと思っています。ICT機器の活用がその問題を解消する手立てになればよいと思っています。

今回、研究会の進め方を、「グループ協議1→まとめ→グループ協議2」としています。協議を二つに分けた理由としては、グループ協議1では、研究主題に則って話し合いをし、まず校内研究全体の成果と課題をまとめたいからです。その後、グループ協議2では、そのまとめを基にして自分たちのグループテーマで話し合います。前回の研究会でも協議を2回に分けて行ったのですが、グループ協議1の時に研究主題ではなく自分たちのグループテーマで話をされている先生が多かったので、まとめをするときに何が成果で何が課題だったのかが分かりにくくなってしまいました。その結果、研究会後にもう一度、いろいろな先生方に話を聞きに行ったり、プリントを見直したりしなくてはなりません。今回はグループ協議1と2で、協議の視点をしっかり定めて話し合いをしてもらうことで、成果と課題が明確になるとよいと思っています。



このお話からも分かるように、校内研究の目指す方向を定め、トライ＆エラーを繰り返しながらよりよい校内研究のあり方を模索されています。校内研究主任として、普段からY小学校の先生方の学びを見取り、成果と課題を把握されているからこそ、次の一手が打てるのですね！



## 校内研究会の参観

校内研究会の参観では、研究委員のみなさんにターゲット教員の学びを見取りながらグループ協議に参加していただきました。協議の場での学びを見取るだけでなく、ターゲット教員が設定した課題とこれまでの学びを記した「校内研究・自己分析シート(Y小学校版「授業アップデートシート」)」に目を通していただいてから、グループ協議に参加しました。

参観終了後に研究委員のみなさんには、グループ協議中に見取ったターゲット教員の学びを整理したり、ターゲット教員の今後の学びにつながる情報を収集したりするためにインタビューを実施していただきました。



教員の学びを見取る



ターゲット教員へのインタビュー

今回、学びを見取っていただいた経験を各実践校の先生方の学びの見取りに生かしていただき、今以上に教員一人ひとりの学びの転換を推進する校内研究のあり方を考えていただけることを期待しています。



## 研究委員のみなさんの振り返り

### ○第6回プロジェクト研究会の振り返り

- ・校内研究の大きなテーマだけでなく、具体的な課題設定や学びの姿をもって授業を見ることでより学びが深まると感じた。また、指導と評価の一体化を考えた時に、その指導は明確な授業の展開や手立て、子どもの姿をきちんとをもって臨む必要があると思った。
- ・他校の研究会の様子を見せていただくことは、とても刺激になりました。小規模校では考えられないような参観や交流の仕方があり、新鮮だった所と、自校でも取り入れられそうなのがありました。また逆に、小規模であるがゆえの強みも感じられました。
- ・小学校の先生方が子どもたちにどんな力を付けさせたいか明確にもち、授業研究されていることがよくわかりました。子どもの様子をしっかりと見て、手立て・支援がとても細やかにされていることも大変勉強になりました。
- ・新しい研究会の進め方を工夫し、実践しています。本日もICTを用いるということや会の進行方法を変えるという工夫をしました。自分自身のグループでは、とても話し合いがスムーズになったように感じます。他の先生方の意見を取り入れながら、研究会の進め方をまた考えていきたいと思えます。

### ○第6回プロジェクト研究会での学びを自校の校内研究会でどのように生かしたいですか

- ・グループ協議での話し合いは、全体よりもより「自分事」として捉えやすいように感じた。来週からの校内研究会で検討したい。若い先生のとても熱心な姿を見て、本校でも同じ姿になるような取組内容やアプローチを考えたい。
- ・3～5人の小グループでの話し合いは、短い時間でも全員に発言のチャンスがあってよかったと思います。また、発表者に対して校内研究主任が「何がそれを引き起こしたと思いますか」と問い返されていたのが、授業を見ているようで、真似したいと思いました。
- ・研究主題に全員がしっかりと向かっていけるような工夫がされていました。授業の中で入れた手立てを参観前に具体的に知っておくことは、参観する視点がはっきりしてグループ協議もしやすいと感じました。
- ・授業者やグループリーダーにここまで深く関わることができるのだということが新たな学びです。もっと一人ひとりの先生の思いや教育に対する考えなどをお聞きしたいと思いましたし、それを把握することで研究会もより深まると思いました。

## 第6回プロジェクト研究会を終えて、研究員の思いと今後に向けて

まずは、今回のプロジェクト研究会を開催するにあたり、多大な御準備をいただいた、校内研究主任をはじめ、Y小学校のみなさんに感謝をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

今回は「教員の学び」を見取ることで教員一人ひとりの学びの転換を推進する校内研究のあり方について考えていただきました。これは授業において先生方が子どもの学びを見取り、次の授業改善に生かす過程と似ていると思いませんか。研究委員のみなさんによる学びの見取りでさらなる校内研究の活性化につなげていきましょう！



研究員 いぬます けいご 稲益 圭吾



研究員 しまうち ゆうしょう 島内 佑祥